

いしづち

愛媛労災病院広報紙第18巻第2号

(通巻第88号)

2019年4月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして
地域の人々のために信頼される
医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に
推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、
以下のように宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の
決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務

第5回 市民公開講座を開催しました



詳細記事は、
4頁に掲載しています。



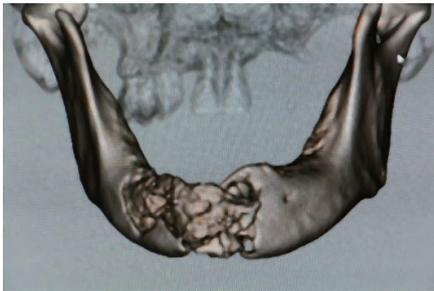
骨吸収抑制剤による顎骨壊死と医科歯科連携	2
薬剤部紹介	3
北4病棟紹介	3

第5回 市民公開講座を開催しました	4
新任医師のお知らせ	4
ふれあい看護週間行事のお知らせ	4

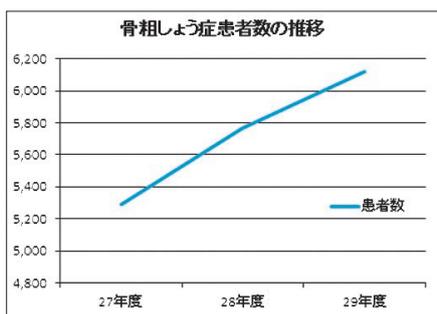
骨吸収抑制剤による顎骨壊死と医科歯科連携

歯科口腔外科部長 千葉 晃 義

骨粗鬆症またはがんの骨転移に対する治療で使用される骨吸収抑制剤（ビスフォスフォネート製剤、デノスマブ）の副作用で出現する顎骨壊死は、発症は少ないものの出現すると非常に難治性で治療は容易ではありません。（図1）の症例は腎細胞がんの多発骨転移にてビスフォスフォネート製剤（BP）を投与、その後義歯が強く接触する箇所に口内炎が出現、潰瘍に進展し顎骨壊死を起こしてしまいました。疼痛、摂食障害、腐敗臭、構音障害を認め著しくQOLが低下しました。この方はがんの骨転移に使用した高濃度のビスフォスフォネート製剤（BP）の症例ですが、骨粗鬆症患者でも条件（長期投与、糖尿病、ステロイドの使用）がそろえば同様の顎骨壊死が出現します。当科においても症例数は増加傾向です。

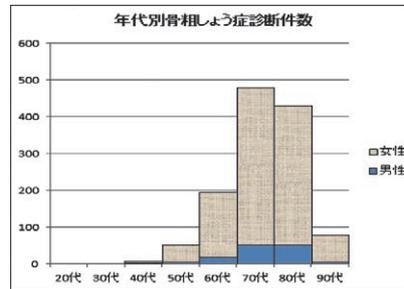


【図1】



【図2】

（図2）は当院の骨粗鬆症患者数のグラフですが年々増加しています。それと比例して顎骨壊死患者数も増加してきています。



【図3】

骨粗鬆症は閉経後の女性に多いため50歳代から発症して60歳ころから多くなり70歳代をピークに80歳代の患者も多数います。（図3）女性の4人に1人が骨粗鬆症を罹患しています。新居浜市の人口12万人のうち7万人が50代以上であることを考えると今後も骨粗鬆症患者が増加し骨吸収抑制剤を使用する頻度も増えることが容易に予測されます。それに伴い顎骨壊死患者数も増加すると考えます。近年超高齢社会を迎え90歳以上の高齢者が増加しています。いま70歳代、80歳代の骨粗鬆症患者がビスフォスフォネート製剤（BP）が蓄積された状態で90歳を迎えた時、かなり多くの顎骨壊死患者が出現する予感がしています。現実には当科において90歳代の患者数が増えてきている傾向にあります。

今やれることは何でしょうか？口腔内の感染源を制御することです。

顎骨壊死は口腔内の細菌感染から発症します。大切なのは骨吸収抑制剤を使用する前に口腔内の感染源を除去（歯周病の治療、感染している歯牙の治療、抜歯、義歯の調整等）を行うことが重要です。そして継続して口腔ケア、メンテナンスを3か月に1度行うことが大切と考えます。新居浜市、四国中央市では医科歯科連携用紙を医師会、歯科医師会合同で作りました。活用して顎骨壊死の発症を少しでも抑制出来ればと思います。

骨吸収抑制剤をうまく使って骨折を予防し、いつまでも元気で動けるようにしましょう。歯周病や虫歯を予防し、いつまでも美味しく食べられるようにしましょう。「動ける」「食べられる」いつまでも元気に生活しましょう。

薬剤部紹介

薬剤部長 深田 章

薬剤部は現在9名の薬剤師で薬剤業務を行っています。

病棟毎に専任の薬剤師を配置しています。入院患者さんに必要に応じて薬の効果、飲み方、使い方、注意点などについて、わかりやすく説明をさせて頂いています。また、他の医療機関等で処方調剤された薬との飲み合わせや副作用のチェックなどを行い、医師や看護師等と協力しながら、的確な治療を支援しています。

当院では緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、感染対策チーム、認知症ケアチーム、糖尿病ケアチームなどの様々な職種により構成された医療チームが活動しています。薬剤部ではこの医療チームの一員として積極的に参加し、患者さんの治療支援に関わっています。

また、がん治療においては、患者さんそれぞれの状態に合わせた抗がん剤の種類や投与量、投与間隔などが重要となってきます。薬剤部では抗がん剤による治療が計画どおりに正しく行われているか等を、検査結果も含めて総合的に

確認しています。さらに、抗がん剤はすべて薬剤師が安全キャビネットと呼ばれる専用の設備の中で安全かつ無菌的に調製を行っており、これらの業務を通して患者さんのがん治療の支援を行っています。

これからも薬剤の適正使用にむけて積極的に関わっていきたくと考えています。

どうぞ、今後とも愛媛労災病院をよろしくお願い致します。



北4病棟紹介

看護師長 日野 美保

北4病棟は、産婦人科、小児科、整形外科の混合病棟で院内唯一の女性病棟です。患者さんの年齢は、新生児から90歳代と幅広く、又、分娩、手術、化学療法、緩和ケアと、その治療内容も多岐に渡っています。

スタッフは、看護師16名、助産師9名で構成されており、それぞれの職種が専門性を発揮すると共に、協働して患者さんのケアを行っています。

近年、特に高齢の整形外科の患者さんが増えており、看護師チームでは周手術期のケアのみならず、患者・家族の皆様が望む場所に、望むかたちで退院できるよう、退院調整専任看護師の協力を得て取り組んでいます。

助産師は入院患者のケアだけに留まらず、外来患者の乳腺炎に対するケアが手厚いと好評で

す。また、新居浜市の委託を受けて、育児サポートを中心とした産後ケア事業も開始しています。

これからも地域との連携を密に図りながら、診療科や年齢を問わず、女性を支援できる病棟でありたいと思います。



第5回市民公開講座を開催しました

広報委員会 スタッフ一同

平成31年2月16日(土)、新居浜市市民文化センターにて、「フレイル対策で健康寿命をのばそう～カギは栄養×運動×社会参加～」をテーマに、第5回市民公開講座を開催しました。

「健康寿命」については、近年話題に上がることも多いですが、「フレイル」という言葉は一般にはまだまだあまり知られておらず、今回ご参加いただいた皆様の中にも、初めて知ったという方が多くいらっしゃいました。

「フレイル」とは、加齢に伴って体力や精神力など心身の活力が低下し、要介護の状態に近づく虚弱状態を指しますが、早めの対策により、元の健康な状態に戻る可能性があります。そのため、健康で自立した生活を送ることができる「健康寿命」期間をのばすためには、このフレイル状態への対策が重要となります。今回の市民公開講座では、「フレイル」対策のカギとなる「栄養」、「運動」、「社会参加」について、5つの講演を行いました。

第I部講演では、「栄養」について、新居浜市保健センター管理栄養士の井手洋子先生に、講演いただきました。フレイルの導入からはじまり、チェックリストを用いたフレイル状態の確認や、低栄養の対策・改善について、市の活動の紹介も交えたお話をさせていただきました。そして、栄養をとるために重要な、「口腔ケア」について、当院の横井由実看護師長補佐、加地玲子NST専門療法士、野村裕子言語聴覚士による講演を行いました。講演中には、ご参加いた

いただきました皆様に、口の健康状態のチェックや、唾液腺マッサージ、早口言葉による滑舌改善プログラムを体験していただきました。

続く第II部講演では、「運動」について、当院の川上泰広整形外科副部長が講演を行い、ロコモティブシンドロームやサルコペニアの身体面のフレイルの判定方法や筋力訓練の紹介をしました。次に、大久保勝朗理学療法士により、身体的フレイルの対策に効果的な筋力トレーニングの紹介と実演を行い、ご参加いただいた皆様にも実際にトレーニングを行っていただきました。最後に、「社会参加」について、新居浜市地域包括支援センター副所長佐々木正子先生に講演いただきました。市民の健康にとってかけがえのないものとなる健康長寿地域拠点での活動が、フレイル対策としても重要であることをお話しいただきました。

多くの皆様にご参加いただき、大変有意義な講座になったと存じます。開催にあたり、共催をいただきました新居浜市およびご講演いただきました皆様には深く感謝申し上げます。

また、好評をいただき、第6回市民公開講座を令和2年1月25日(土)に開催できることとなりました。来年度も市民の皆様と共に健康について考える場を作っていくため、スタッフ一同尽力していきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

新任医師のお知らせ

令和元年4月に整形外科に萩 健太郎医師、循環器内科に南野巧真医師、皮膚科に樋口睦美医師が着任いたしました。また、5月より歯科口腔外科に住田知樹医師が新任いたします。

詳しくは7月発行予定の「いしづち 第89号」にて紹介いたします。

ふれあい看護週間行事のお知らせ

令和元年5月8日(水)に、ふれあい看護週間行事を1F薬局前ホールで行います。日程は右記のとおりです。皆様ぜひご参加ください。

- | | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 第一部 | 10時30分～11時30分 | |
| | 看護相談・身体測定・糖尿病・褥瘡予防・口腔ケア・ | |
| | 妊産婦相談・感染予防・防災 | |
| 第二部 | 14時00分～15時00分 | ふれあい寄席 |
| | ※ 10時30分～15時00分 | 骨密度測定 |

広報誌編集メンバー 委員長：福井副院長 委員：山田第2内科部長、今田看護副部長、荒井看護師長、横井看護師長補佐、加地看護師、西山薬剤師、西原作業療法士、正岡診療放射線技師、井上臨床検査技師、住本総務課長、岸本総務課員、中山診療情報管理士、椿総務課員